

# おきなわ技能五輪・アビリンピック2018

## 11月2日から5日まで沖縄県内の施設で開催

### 雇用改善や産業の高度化に資する大会に

第56回技能五輪全国大会及び第38回全国アビリンピック「おきなわ技能五輪・アビリンピック2018」が11月2日から5日までの4日間、沖縄県内の複数の施設を会場として開催される。

技能五輪全国大会は青年技能者とその技能レベルの日本一を競うことにより、国内青年技能者の技能水準の向上を図り、併せて技能尊重機運の醸成を図ることを目的とする競技



## おきなわ技能五輪・アビリンピック 2018

第56回技能五輪全国大会 11/2 FRI ~ 5 MON 第38回全国アビリンピック

### 技能五輪・アビリンピックのポスター

近年の沖縄は、社会基盤の整備、観光産業の拡大、情報通信や物流関連企業の誘致が進み、雇用環境は改善傾向にあるものの、依然として離職率、失業率が高く、非正規労働者の割合が多い状況が続いている。こうした状

況の改善を図るため、沖縄県内の技能水準の向上及び産業の高度化に資するイベントとして技能五輪とアビリンピックを企画。今年の11月の初旬、技能五輪とアビリンピックを同時開催することになった。

大会のコンセプトは①未来の人づくり、②競技大会とキャリア教育の両立、③障害者の雇用促進の3点。①未来の人づくりでは、企業における人材育成の意欲を高め、産業を支える青年技能者の拡大及び技能の向上を図り、沖縄県内産業の持続的発展の基盤強化につなげる。②競技大会とキャリア教育の両立において

は、選手達のパフォーマンスを引き出す環境と、次世代を担う子供が研鑽された技能に触れる見学環境を整え、相互にメリットが享受できる互恵的な大会環境の構築を意図する。③障害者の雇用促進は大会参加者と来場者の交流を通して、障害者の職業能力に対する理解と認識を高め、障害者の雇用促進を図っていく。

大会スローガンには「チャレンジ・フォー・ザ・フューチャー」を採択。働くことの意義を問うことをテーマに若年層の技能への関心を高める。開催期間のうち、1日目の11月2日は開会式及び会場下見になり、原則として競技は2日目の11月3日及び4日の2日間で行われる。4日目の11月5日は閉会式と成績発表であり、優秀者や優秀団体が表彰される。参加者数は選手1300人を想定。来場者数は沖縄県内及び国内から約10万人。技能五輪の競技職種は全部で41職種を予定。建築系の職種では建築大工、配管、鳶、建具、家具、造園など8職種で競技が行われる。技能五輪の参加資格原則23歳以下（平成7年1月1日以降の生まれ）であること。

全国アビリンピックの競技種目は全22種目の予定。建築・工芸系の職種では家具、建築CAD、木工などがある。参加資格は平成30年4月1日時点で15歳以上の障害者。なお、式典会場は技能五輪、全国アビリンピック共に沖縄セルラースタジアム那覇が予定されている。